１人１台端末の活用による実践事例

学 校 名	岡山県立倉敷南高等学校		
実践者等	景山　晴光	実践日	令和３年６月１８日
実践場面 （教科・科目、学校行事等）	英語表現Ⅰ		
対象生徒（学年等）	１年次		
単 元 名 （教科・科目の場合のみ）	Lesson 2 さまざまな「時」を表現する〈時制〉		
使用したアプリ等	Meet、Google カレンダー		
実践の概要（ねらい等）	海外姉妹校とのオンライン交流：時制を意識した英語原稿を作成し、英語で日常生活について説明する。姉妹校生の日本語学習の補助となる日本語での質問等を行う。		

実践の内容

１年次生１クラス、40 人が１人１台端末（Chromebook）を活用し、カシミア高校（ニュージーランド）で日本語を学習する生徒 20 人と Meet で繋がった。事前にそれぞれの学習単元（日本語学習生は「～した後で」「～する前に」、本校生徒は「時制」）を確認し、それらを活用した会話ができるように準備を行った。

今回の交流は本校生徒４人とカシミア高校生２人の６人の小グループで活動した。生徒は「放課後」や「昼食」について、カシミア高校の生徒に絵や写真を見せながら英語で説明し、質疑応答を行った。

オンラインの準備として、本校の教師が Google カレンダー上で Meet の URL を 10 個用意し、本校生徒とカシミア高校生に事前に知らせていたが、当日はその Meet にカシミア高校生が入れず、接続に時間がかかった。（原因は Meet の URL を作り出した人がホストとなり、その人の許可がないと Meet に入れないということであった。本校教師が 10 個の Meet に１つずつ入り、カシミア高校生に順次許可を出すことで解決した。）次回からは本校生徒のグループリーダーが Meet の URL を取得し、ホストとなることでこうした手間は省けると考えている。

画面越しではあるが、自分の目の前に姉妹校の生徒がおり、生徒自身が画面の相手を意識して、コミュニケーションをとろうとしている場面が多くみられた。直接やりとりできたことが自信や喜びとなり、終了直後に、次回のオンライン交流を切望する生徒がいた。今後１年間をかけて１年次の全クラスで同様の取り組みを実施予定である。

参考となる HP 等	